

厚生労働省 令和 7 年度 介護現場の生産性向上に関する
普及加速化事業一式

ビギナーセミナー発表資料
「センサーチャイムの導入」

【事業所名】社会福祉法人青山里会 小山田グループホーム

取組の目的

- ・入居者の居室にセンサーチャイム（見守りセンサー）を導入することで、入居者の安全確保につなげる。
- ・センサーチャイムを導入することにより、職員の身体的・精神的負担を軽減し、働きやすい職場環境になり、職員の離職が減ることが期待できる。
- ・効率的で持続的なケアにつなげる。

2. 取り組みの流れ



取り組み全体の流れ

(取組手順)

(実施内容)

P	手順 1	改善活動の準備をしよう	手順 1 ⇒・職員会議にて改善活動取り組みについての趣旨説明 ・取り組みのリーダー選出⇒介護職員サブリーダーを選出
	手順 2	現場の課題を見える化しよう	手順 2 ⇒・現状把握のため全職員に“気付きシート”の記入提出
	手順 3	実行計画を立てよう	手順 3 ⇒・ワークシート 1「課題解決の道筋の文章化」 ・ワークシート 2「解決したい問題構造の文章化」 ・実行計画作成
D	手順 4	改善活動に取り組もう	手順 4 ⇒2回目職員会議にて改善活動の説明 ・たんぽぽユニットにてセンサーチャイムの導入 ・自室ポータブルトイレの設置
C	手順 5	改善活動を振り返ろう	手順 5 ⇒・効果検証 ユニットミーティング実施 ・改善活動の取組結果の説明 ・良かった点、今後改善する点等
A	手順 6	実行計画を練り直そう	手順 6 ⇒・実行計画の見直し（センサーチャイム導入でうまくいかなかった点、新たな取り組みについて）

手順 1 : 改善活動の準備

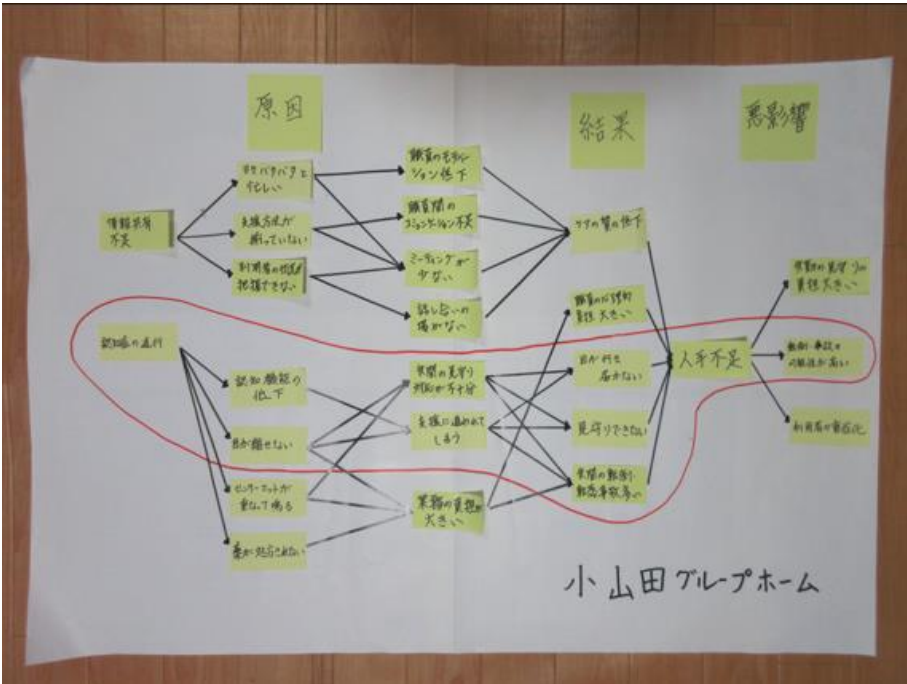
- たんぽぽユニットユニット職員ミーティングにて、センサーチャイム導入調査を行う事を説明
- たんぽぽユニットにおいてセンサーチャイム導入前と導入後の調査を実施
- 対応を行った職員がチェック記入（主に夜勤帯）

【実施体制の整備】

- 24時間の時間帯で、センサーチャイム導入前と導入後の居室訪問回数をチェック表に記入
- 自室訪室時、利用者がどの場所にみえたかもチェック
（ベッド上、ベッドに端座位、ベッドから立って移動、廊下、トイレなど）

＊ 対応に困った点・・・他ユニットのセンサーマット利用者のセンサーが鳴る時間帯が重なった場合、どちらを優先するか迷う。

手順2：現場の課題の見える化



ワークシート2「課題解決の道筋の文章化」

小山田グループホーム

深層原因	認知症の進行	に対し、
業務改善の取組 (打手)	センターマート導入 ホーダブル使用 職員が ナースコールを押し、応援を頼む	を実施することにより
好転した 深層原因	認知症進行は防ぐことはできないが 転倒 事故を未然に 防ぐ	となり、
原因	認知機能低下や 目が見えにくい 人がいる	という問題が解消・軽減され
結果	目が行き届かない	がなくなり、
悪影響	転倒・事故の可能性が高い	の改善が期待できる。

手順3：実行計画の立案

1. 改善活動の準備・・・職員への説明（職員会議）
2. 現場の課題の見える化・・・気づきシートの記入
3. 課題解決の道筋
4. 課題解決の道筋の文章化
5. 実行計画の方針決定
6. 実行計画づくり
7. 改善活動への取り組み
8. センサーチャーム導入前と導入後の計測・記録
9. 効果検証、2 W後、4 W後
10. 職員の感想を聴取・記録
11. 振り返り、効果検証の実施
12. 報告に向けた整理、データ作成
13. 成果報告書作成

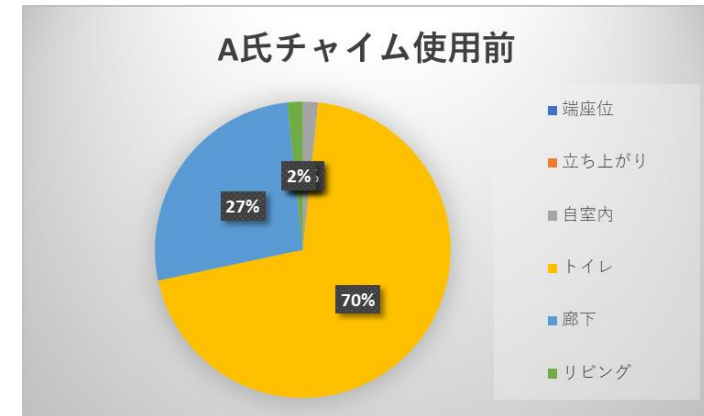
手順4:改善活動の取組

“センサーチャイム”の導入に向けての取組

- ①福祉用具機器業者からの見積もり取り寄せ
- ②同法人グループホームを訪問し、“センサーチャイム”の活用状況の見学
- ③“センサーチャイム”の発注・取り寄せ
- ④“センサーチャイム”導入の職員への説明と周知
- ⑤KPI “センサーチャイム”導入前データの測定
- ⑥“センサーチャイム”を居室ベッドに設置
- ⑦KPI “センサーチャイム”導入後データの測定
- ⑧職員の感想を聴取・記録
- ⑨効果検証の準備、データ作成
- ⑩成果報告に向けた取り組みの検証

手順5:改善活動の振り返り（取組の成果）①

		A氏						
導入前		端座位	立ち上がり	自室内	廊下	トイレ	リビング	
	10月23日				1	1		2
	10月24日				2	5		7
	10月25日					3		3
	10月26日				1	2	1	4
	10月27日			1	1	1		3
	10月28日				2	3		5
	10月29日					4		4
	10月30日				3	1		4
	10月31日				2	2		4
	11月1日					6		6
	11月2日				3	2		5
	11月3日					2		2
	11月4日					4		4
	11月5日				1	2		3
	11月6日					4		4
導入後	11月7日	3	3					6
	11月8日	2						2
	11月9日	4						4
	11月10日	5						5
	11月11日	3						3
	11月12日	1						1
	11月13日	3						3
	11月14日	3						3
	11月15日	2						2
	11月16日	3						3
	11月17日	4						4
	11月18日	4						4
	11月19日	1			1			2
	11月20日	4						4
	11月21日	2						2
	11月22日	3			1			4
	11月23日	3						3
	11月24日	5						5
	11月25日	3						3
	11月26日	3			1			4
	11月27日	3			1			4
	11月28日	1						1
	11月29日	4						4
	11月30日	5						5
	12月1日	2						2
	12月2日	3						3
	12月3日	3						3
	12月4日	4						4
	12月5日	2						2
	12月6日	3						3
	12月7日	4						4
	12月8日	1						1
		96	3	1	20	42	1	163

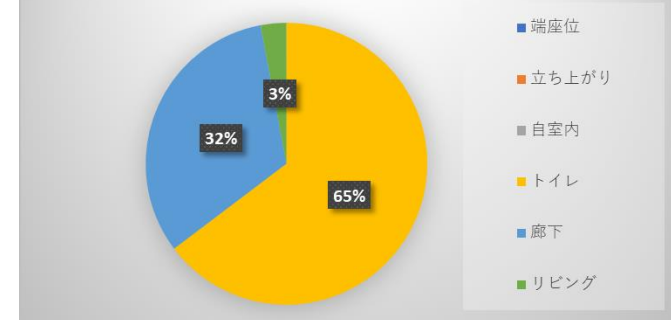


手順5:改善活動の振り返り（取組の成果）②

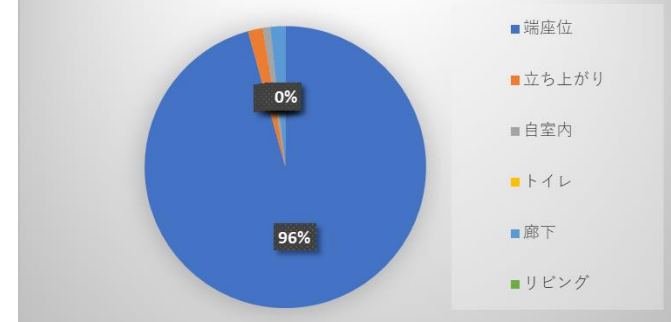
B 氏

	端座位	立ち上がり	自室内	廊下	トイレ	リビング	
導入前	10月23日			1			1
	10月24日				4		4
	10月25日				2		2
	10月26日			1		1	2
	10月27日				2		2
	10月28日			2	1		3
	10月29日			1	1		2
	10月30日			2			2
	10月31日			1	1		2
	11月1日			1	1		2
	11月2日				5		5
	11月3日				2		2
	11月4日				2		2
	11月5日			1			1
導入後	11月6日			1	1		2
	11月7日	1	1				2
	11月8日	1					1
	11月9日	2					2
	11月10日	3		1			4
	11月11日	2					2
	11月12日	1					1
	11月13日	1					1
	11月14日	1					1
	11月15日	6	1				7
	11月16日	3		1			4
	11月17日	5					5
	11月18日	5					5
	11月19日	6					6
	11月20日	2					2
	11月21日	2					2
	11月22日	6					6
	11月23日	4					4
	11月24日	5					5
	11月25日	4					4
	11月26日	4					4
	11月27日	4		1			5
	11月28日	3					3
	11月29日	4					4
	11月30日	4					4
	12月1日	3					3
	12月2日	3					3
	12月3日	4					4
	12月4日	5					5
	12月5日	4					4
	12月6日	6					6
	12月7日	3					3
	12月8日	5					5
		112	2	1	13	22	151

B氏チャイム使用前



B氏チャイム使用后



手順5:改善活動の振り返り

【“センサーチャイム”導入後の効果検証】

・“センサーチャイム”導入前2週間と、センサー導入後4週間の効果検証を行った。

【実施したことの概要及び結果について】

・センサーチャイム導入前では、夜間、入居者が自室から廊下に出てみえ、トイレのNSコールを押されるまで夜勤ケアワーカーが気付かない場面が多く見受けられた。

・センサーチャイム導入後は、センサーが鳴ると直ぐに訪室するので、入居者がベッドから立ち上がるまでに訪室でき、ほとんどがベッドに端座位の状況で気付くことができた。

・入居者の居室での転倒・事故防止につながり、夜間の転倒事故が減少した。

・職員の夜間の居室訪問回数も減り、夜勤職員の身体的負担軽減、精神的負担軽減につながり、夜勤勤務時の入居者の転倒・事故へのストレス軽減にもなっている。

手順6:実行計画を練り直そう

- ・今回、たんぽぽユニットにおいて、居室に“センサーチャイム”を導入することで入居者の夜間の転倒事故防止につながり、効果がみられたので、ひまわりユニットにおいても“センサーチャイム”を導入していくことで、夜間の転倒事故を減らす効果が期待できる。
- ・“センサーチャイム”を導入することで、夜勤帯の職員の身体的・精神的負担軽減が図れ、働きやすい職場環境の実現により、職員の離職防止につながる。
- ・業務改善の一環として、令和7年度からは法人全体で新しい介護ソフト導入に移行することで、記録のペーパーレス化の推進、全ての記録のシステム化、情報の共有化を目指す。

まとめ



まとめ

・業務改善として、令和 7 年度からは、法人全体での新しい介護ソフトへの移行、導入に向けて現在研修を重ね、試行の段階であるが、新しい介護ソフト、AI テクノロジーの活用により、記録・報告業務の効率化を図り、情報の共有化を図れるようにしていく。

・職員が働きやすい職場環境が構築できるよう、職員間での意見交換や話し合いを行いながら、小さな改善を積み重ねていくことで、職員のモチベーションを上げ、より良いケアの実現に向けて職員全員で取り組んでいきたい。